

主要登場人物

ラインハルト・フォン・ローエングラム

(Kaiser Reinhard von Rohengramm)

銀河英雄伝説の主人公の一人。金髪と蒼氷色の瞳を持つ貴公子。戦争の天才。ローエングラム王朝初代皇帝。獅子帝と呼ばれることもある。帝国と同盟の一五〇年にわたる戦争に終止符を打ち、人類社会全体の統一を果たす。銀河帝国の支配者ゴールデンバウム王朝を打倒し、自ら戴冠してローエングラム王朝を樹てる。

ジークフリード・キルヒアイス

(Siegfried Kirchs Großezog des Imperiums)

ラインハルトの腹心であり親友。ルビーを溶かして染めたような赤毛と感じの良い青い目の長身の若者。智と勇を兼ね備えた帝国軍屈指の驍将としてラインハルトを補佐し続ける。元帥、帝国大公子。

アンネローゼ・フォン・グリューネワルト

(Annerose Großherzogin von Grünwald)

ラインハルトの姉。一五歳の時、時の皇帝フリードリヒ四世の後宮に納められ、グリューネワルト伯爵夫人となる。フリードリヒ四世の死後、ラインハルトたちの許へ戻るが、その後、わけあってフロイデンへと隠棲する。ラインハルトにより大公妃の称号を贈られる。

ヒルデガルト・フォン・マリィンドルフ

(Hildegard von Mariendorf-Freilein Mariendorf)

マリィンドルフ伯爵家の一人娘。伯爵令嬢マリィ

ンドルフ。通称ヒルダ。短くした、くすんだ金色の髪とブルー・グリーンの生き生きした瞳の、美貌の少年を思わせる女性。新王朝において、帝国軍幕僚総監に任じられ、皇帝首席秘書官を兼務する。ラインハルトのよき補佐者であり理解者。

オスカー・フォン・ロイエンタール

(Oskar von Reuenthal)

元帥・統帥本部総長。青い左目、黒い右目の金銀妖瞳の美男子。ミッターマイヤーと並んで『帝国軍の双壁』と称される名将。智と勇のバランスにおいては、ラインハルト、ミッターマイヤー、ヤンを凌ぎ、キルヒアイスに比肩すると評される。漁色家。乱世の梟雄と評する声もある。

ヴォルフガング・ミッターマイヤー

(Wolfgang Mittermeier)

帝国元帥・宇宙艦隊司令長官。用兵の速度で比肩する者のない、疾風ヴォルフ。ロイエンタールとともに「帝国軍の双壁」と呼ばれる。蜂蜜色の髪と灰色の瞳、体操選手のように引き締まった体躯の所有者。

ヤン・ウェンリー

(Yang Weng-ii)

銀河英雄伝説の主人公の一人。同盟軍元帥。歴史を学ぶ目的で同盟軍士官学校に入り、そのまま意に反する形で軍人となる。「エル・ファシル」で多くの民間人を救い、若き英雄となる。バーミリオン会戦の後、退役してフレデリカと結婚、退役生活を享受していたが、諸般の事象によりハイネセンを脱出、ヤン不正規隊を指揮することになる。

フレデリカ・グリーンヒル・ヤン

(Frederica Greenhill Yang)

同盟軍大尉。知性と美貌を兼ね備た、ヤンの副官。バーミリオン会戦の後、退役してヤンと結婚し、F・G・ヤン夫人となる。

ユリアン・ミンツ

(Julian Mintz)

トラバース法でヤンの養子になった、亜麻色の髪の中々に端正な顔立ちの少年。地球教の秘密を探り当てるが、まだヤンに話していない。その後、エル・ファシルでヤンと再会する。

ヨブ・トリューニヒト

(Job Trübnicht)

同盟最凶の政治家。原作通り、帝国に移り住み、なにか画策している模様。

アドリアン・ルビンスキー

(Adrian Rubinsky)

フェザン自治領主。黒狐。今は身を隠している。いつまで隠れている気なのかは知らないが、帝国に混乱を招来することで、復権を狙っているらしい。

ドミニク・サンピエール

(Dominique Saint-Pierre)

ルビンスキーの愛人であり、歌手、ダンサー、女優。フェザンでも知られた酒場の経営者。赤茶色の髪の美女。ルビンスキーとともに帝国軍の目を逃れ、潜伏生活を送る。

ハイドリッヒ・ラング

(Heidrich Lang)

帝国内国安全保障局長。栄養の満ち足りた赤ん坊のような容貌に、唯一神へ語りかけるような荘重な重低音の声の所有者。帝国政府内で、ある種の野心を抱く。

ジョアン・レベロ

(Joan Lebel)

現職の自由惑星同盟最高評議会議長。同盟の元首本来は、有能で清廉な政治家で、反トリューニヒト派の急先鋒だった。バーラトの和約後、元首の地位については帝国の有形無形の圧力に苦しみ、国家と政府を守るために迷走を繰り返す。

【本編オリジナルキャラクター紹介】

グレーチェン・ヘルクスハイム

(Gretchen Theresa Herxheim,



Margareta Therese von Herxheimer)
OVA『奪還者』に登場した、ヘルクスハイマー伯の娘で亡命者。亡命

後、グレーチェン・ヘルクスハイムを名乗る。紫水晶の瞳と淡い金髪の、ビスク・ドールを思わせる端正な顔立ちの女性。ベンドリングと共にヤン不正規隊に入り、巡航艦『ハリファックス』を指揮するようになる。

ヴェンツェル・ハインリッヒ・フォン・ベンドリング

(Wenzel Heinrich von Bendring)



同じくOVA『奪還者』で、最後にマルガレータを同盟へ亡命させる上での後見人として、彼女に同行した、伯爵家の三男坊。本誌では、ヤン不正規隊の情報参謀を務めている。

シャルロッタ・ゼーダーシュトレーム

(Charlotte Soderstrom/Lotti Söder)



同盟軍士官学校でのグレーチェンの同期生。通称ロッティ・セーデル。黒髪・黒瞳の眼鏡娘。グレーチェンよりも実年齢二歳年上、グレーチェンの親友。本誌では中尉ヤン不正規隊に参加する。

フランツペーター・ヨハネス・バウアーシュミット

(Franzpete Johannes Bauerschmitt)

国立オーディン文理科大学医学部准教授。膠

原病の専門研究者としての実績もあり、同時に臨床医としても優秀な経歴を持った若い医師。マリィンドルフ伯爵家の支援で、未知の疾病研究に取り組んでいる。

コルネリア・ゲルトルーデ・フォン・シュミットバウアー

(Cornelia Gertrude Vizegäin von Schmitzbauer)



シュミットバウアー子爵家の最後の当主で故人。子爵夫人。通称ゲルタ。シュミットバウアー家始祖ヨーゼフはルドルフの腹心であり、創業への貢献に対し、ルドルフは『シュミットバウアーの言葉を軽く聞かざるべし』の遺訓を遺し、シュミットバウアー一族には『帝室のために身を挺せよ』の言葉を与える。ゲルタは、その言葉を最後まで実践した、シュミットバウアー一族の最後の一人。ヒルダの友人。

ティフリー・プラントン

(Tiffany Branton)



同盟軍士官学校でのグレーチェン

の同期生。クルーカットの髪型、長身で頑丈な体つきの生真面目な若者。本誌では中尉。グレーチェン、ロッティと共にヤン不正規隊に参加する。

狼犬

(Wolfshund)

艶やかな長い黒髪と、ほとんど白目の見えないほどに大きな黒瞳の持ち主の女性。フェザーンの高級住宅街に、彼女を『奥様』あるいは『お嬢さま』と呼ぶ老執事と暮らしている。フェザーン自治領主府の協力者にして、シュミットバウアー一族との確執を抱える(らしい)。様々に暗躍する。

ミハエル・タウゼントシュタイン

(Michael Tausenstein)

帝国・ラストエンテ星系出身の大尉。キルヒアイスの副官。ある事件でウジを救ける。柔らかな茶色の髪、柔和な外貌の青年だが、有能でキルヒアイスの信頼を得、新たに設けられる帝国軍大学の受験が決まっている。

ウルシュラ・ザーネヘルシュテラー

(Ulpha Plätzchen Sahnersteller)

ケーキ職人の女性。ミハエルの婚約者。愛称ウジ。菓子職人の専門職人資格を持ち、今は帝都のシュロスホテル・アム・カイザーブラーツのメイ・ダイニングの次席パティシエ。濃い金褐色の髪とこぼれ落ちそうに大きな、青みの強い緑の目の持ち主。

マティアス・ラーゼン

(Matthias Rassen)

帝国軍中尉。タウゼントシュタイン大尉の後任と